

長谷川一夫やら、ハハーンと思わされる名前が飯場でもドヤでもちよいちよい使われています。そうさせるもの、人間としての成る種の自己防衛、自己保存、同時に自己解体の欲求を、仕事紹介はすべて職安でやれという主張とどう調節して行くか。何しろ職安(お役所)というところはすぐ本籍、氏名、生年月日でなことをいいますからね。むずかしいですよ、ほんとに。いってみれば人夫出しの問題は、日本建設業の基本構造の問題であると同時に、いやその前に、釜ヶ崎の基本にかかわってくる問題だし、もっと深い問題もふくんでいるんですね。しかしそれをやっていると話とはめどなく横へ流れてしまうのでひとまずはやめとして次へ進みましょう。

(三) 赤い大きなスプレーの文字について

センターの南の方へ行くと見える南海電車のガードの壁には、スプレーで書いたと思われる赤い大きな文字がありますね。

あれはらくがきと呼んでは悪いのかも知れません。呼びかけとか撒(げき)とか、そんなふうな性格のことが書いてあります。だがここでは、大きな範囲でらくがきのなかにふくゆさせてもらいます。

いろんなのがあります。必ずしも赤で書いたものばかりじゃありません。たとえば

アイヌ共和国 独立万才

それから狭山事件の関連で、まだ獄中にいる石川青年については

石川氏 実力奪還

というのがありました。

それからこんなのもありました。

11月斗争勝利 天皇五十年粉碎
10・31首都へ!!

これは天皇即位五十年の記念式典か何かとの関連で書かれたものでしょう。どうも、ふだん天皇というヒトのことなんか忘れてるので、大きな文字が現われたばかりのとき、読んで「ソー」と考えこんだ記憶があるのです。五十年、その前半は満州事変だのシナ事変だの大東亞戦争だのと、血なまぐさかった大元師から平和な平和な象

徴への五十年。

これとくっつけて紹介したいのは、センターの便所から写してきたらくがきで次のように書いてありました。

天皇などクソのねうちもない

これはまあ実感がこもっているということになるのでしょうか。そしてその右には、別の人が書き足したらしい赤い字があって、そっちの方はこうなっていました。

非国民め 死刑だ!

こちらにもまた、別の考え方に立つ人のやむにやまれぬ書き足しでしょう。この対立する意見二つがもっと発展して便所における天皇制論争に発展したら話題になったんじゃないかと想像させられました。

さてこの一章の本題に入ります。

赤い大きな文字が目立つのは次のものです。

看守に 大阪拘置所の保ゴ房内でなぐり殺された鈴木君追悼! やり返そう

デカパンをなぐり殺した大拘を許さないぞ

鈴木は鈴木国男、デカパンはそゝ愛称でほんとにでかいやつでした。

その鈴木が大阪拘置所に入れられて、保護房のなかで死んだ。死に方、死の原因、それについては現在、法律上の争いがおこなわれているので、ここでは一応不可解なものだったとしかいいませんが、広島母親のもとへ帰った遺骨とは別に、わずかな分骨が彼の山谷時代(養へくる前)、同じ山谷解放委員会のメンバーだった竹中労の手で、フィリピン山中に葬むられるはずだったことを、赤い大きな文字(その書き手)に対して知らせておきました。

昔、山上伊太郎という、時代映画のすぐれたシナリオ作者がいて「大東亞戦争」でフィリピンで死にました。この山上を敬愛すること厚い竹中労は、山上についていろいろと雑誌に書き本も作ったあと、死亡の地をたずねてフィリピンへ出かけますが、鈴木のみならず分骨はそのとき持参の予定でした。山谷解放委員会が消滅して釜へきてからも、時折り箱根の山の中に住む竹中を訪問していた鈴木(の死を、竹中は深く悼んでいました。

鈴木について、こんど竹中が書いた文章を少し紹介し

ます。

それは一九七二年の暮、第一次アジア幻視行に私（竹中）が出立する直前のことだったが、彼は恋人をつれてあらわれた。山谷から釜ヶ崎へ、見果てぬ革命の夢を、ニッポン全土の窮民街にひろげて放浪する間に、一人の女にめぐりあった。「生まれてはじめて俺も恋というものをしてみた」と、鈴木国男は幸福そうだった。小柄なかわいいその娘さんを見て、私は安堵したことであった。

ふらりとあらわれては、かならず寿司をとってくれといい、最低三人前は平げた。酒をやっとおぼえたといール一本でまっ赤に酔って流行歌をうたうのだった（略）その年の二月七日、死の十日前にも電話をかけてきて、山上伊太郎終焉の地・フィリピンへ旅立つと告げると、俺もつれていってくれるかという。パスポートがなければダメだな、ああそうかじゃあこの次に、朗らかな声だったのだが――。

こういう因縁の上で、鈴木骨の一片はフィリピン山中に葬むられるはずでしたが、一行十五人を引きつれた竹中の出発まではめまぐるしく、分骨はついに持参され

うんと出したら

必ず紙できれいに

ふきましよう

（セントタ所長）

これ読んで、笑いながら賛成！ と思いました。どういうわけか、また、どんな具合にやるのか、センターの便所でも地下鉄駅の便所でも、うんこを壁になすりつけたのが大分あるんですね。あれだけはどうにもかなわない。行儀作法がどうこうってことじゃなく、あれはなしにしようよ、ほんとに。

ホテル〇〇帳場はオカマ

こんなのもありました。実は〇〇のところは漢字で二字の名前が入ってるのですが、らくがきはずっと以前のことで現在はそうじゃないかも知れないし、略しました。

オカマの公害なくしよう

どういう意味かわかりませんが、とにかくあったから紹介しときます。

ず、竹中はそれを夢で（気持で）フィリピンのキャンガンというけわしい山の「霧の中に川は流れていた」そのほとりに葬むったといひます。

たよりないこっちゃ――と思うことも自由ですが、私たちおたがい、常に「気持」で生きているのですから、それで十分ともいえましよう。涙が水や塩分などからできているように、骨もまた分析すれば単なるモノの集まりにすぎず、大切なのは通い合う熱い気持です。

（竹中の文章は彼の個人パンフ「冥府通信」第一号から引用しました）

（四）らくがきはいつも花盛り

仕事・飯場情報としてのらくがきを探して写している間には、自然とはかのらくがきへも目が行ったのはすでにごらんの通りです。

そこでこんどは、いわばほんとにらくがきそのもののようなのを紹介してみます。

たくさんなのなかの、ほんの一部ですが。

はじめにセンター三階北側の便所のもの。

お願い

次は俳句だか川柳だかのスタイルです。

性、女に関係したらくがきは、ちょっと考えると多いようですが実際には少なく、そのなかでこれは面白くて哀切です。

今日もまた

あふれて空し

せんずりをかく

それなら、こんど紹介するのは釜ヶ崎のあちこちはじめ旭町の坂を上った阿倍野の方まで、数十個所といったいほど書いてあったので（大分消されましたが）読んだ人はたくさんいるでしょう。

順子 早く逢いたい

逃げた女に呼びかけているのか、空想ロマンの産物なのか、根気よく書いて廻ったことだけはたしかです。

さて、まだまだメモはたくさんあるので、一々の注釈ぬきで並べてみます。そいつはおれも読んだというのもあるでしょうし、なかにはおれが書いたと思ひ当る人だっているかも知れませぬ。

四国善通寺部隊強し

敵前上陸専門

名古屋六連隊強し

四国 名古屋 関東 何でも強し

シノギヤ ドロボーは人間ではない

ウジ虫だから殺してもよい

公明党 カメレオン ペテン師

人の弱味を利用

(新今宮駅西口に数箇所あり)

人間死(ぬ)まで一〇億心ゾウ動く

アンコは心ゾウ早めてるので

ヘイキンすると八億ぐらいにたっしている

アト二億しかないぞ

釜ヶ崎解放 暴動有理

この種のもはたくさんあって、それはよく目にふれているはずですから並べるのはやめます。その代り、い

や代りなどといったては申しわけない一つの「公開履歴書」を紹介します。

西成署のウラ、元の海道公園の北入り口右側、キリスト教の金井牧師がやってる「いいい食堂」の向いになるところですが、ちょっとした荷物が雨ざらしにまとめてあって、そこにまるで表札のようにくっつけた板きれに次のように書いてありました。

昭和十五年七月三十日 徴兵検査甲種合格

昭和十五年十二月十日 朝鮮京城府竜山第二十七部隊

第一中隊第二班

朝鮮京城府竜山第二十師団 (赤字で)

陸軍工兵曹長 齊谷敏雄

昭和二十一年二月七日 復員除隊 五年二月

気がついた者は誰でも読めるように路上へ発表してあるので写したのです。実物には一行目と二行目の下に日の丸やら軍旗やらの絵もついています。この人はいま五十七歳か八歳かでしょう。そろそろ老人の部に入ってしまうこの人は、曹長まで進級しているところから見ても、兵隊、下士官としてはりっぱなものだったにちがいありません。そういう人が釜ヶ崎で暮しているのは何もめず

らしくないのですが、復員除隊後の今日までの足跡を話してもらいたいような気がします。

そういえば、同じ公園の南西の角、櫓のところにも店を出していた露天古物屋のものすごい飲んベエのおっさん、もうずっと見かけませんけど、前にちらと聞いたウワサによると元は西成署勤務の警官だったとか。ウワサですから真偽は不明ですが、もしホントだったとしたら、やっぱりいろいろと話を聞きたい人でした。年がら年中酔っぱらっていたけど、アル中で参っちゃったのかなあ。そんなことのないように、いまもどこかでキゲンよく飲んでるように――。

(五) 仕事伝言板をつくりたいですね

いろいろと、らくがきを見てきました。

そのオマケの方はともかくとして、本題だった仕事と飯場の情報、これはらくがきの形ではなしに、伝え合う方法があるといいな、何とか考えたいなと思っています。

この「労務者渡世」が日刊の新聞でもあればすぐやれますが雑誌では情報がおくれてしまってダメです。

もちろん、いままでの記事を読んだ人のうちの誰でも、うんそれは必要なことだというので、仕事情報や飯場ニ

ユースの日刊新聞を出してくれるのは大歓迎です。

あれやこれやの宣伝や説教ぬきの、情報ニュースそのものが一番いいとは思いますが、まあ発行者それぞれに宣伝したいことと説教したいことがあればそれはそれで仕方ない。いやな人はそっちの方は読まなきゃすむんですから。今回のアイデアを生かしてそんな新聞を出そうと思いつく人を期待します。

しかし、期待するだけではあんまり能がなさすぎて気がトガメルので、当面の方法を一ついつときます。

それは三角公園の西側の通り、全日自労の事務所のあつる通りのずっと公園寄りにこんど開店した「おにぎり屋」のことです。

知ってる人は知ってるようにこの「おにぎり屋」は春から釜生協の前でやってた露天の店が、あたらしく屋根の下へ入ったもの。

心配なのは、いまこうやって原稿書いてるときはやってる店が、雑誌発行ごろにはツブレてやしないかですが、まあ引きつづき営業中のものと考えての当面の方法です。その「おにぎり屋」の壁にちょっとした黒板をぶらさげて、みんなの仕事情報、飯場ニュースを書いてもらう。あるいはまた、メモなりノートなりに書いてもらって誰でも読めるようにしとく。

こんなプランはどうでしょうかね。

「おにぎり屋」主人は「渡世」の編集委員でもありますから、少々の労は惜しまない、ということになってるわけです。

もっといいプランがあったら教えて下さい。

バクチ場も道路工事で立退き (T6)

道路をひろげる工事がだんだん東へ進んで、作業服の、ズンや立ちのみの足立本店の前あたりは歩道もきれいになり、動物園前一番街（飛田本通り）のすぐそばが現在とりこわしになっている。

「イラッシャイ ドウゾウ」と、真似のできない独得の呼びこみをやっている立ちのみの一福や、ゆしの喜久屋やバチンコの穴場もまもなくというところだ。

すでにそこからずっと東、高速道路の入口や一本線の踏切りを越えた方でも、立ちのいた店があつて、「道路予定地」のカンバンをつけたフェンスが張つてある。

そのあたりには、通称「地下」で知られたK組の常設バクチ場なんかも立ちのき建物の中だから、こんどはどこへ移っていくのか。

三十二年前、終戦のすぐあとにさかんだった、阿倍野の大ヤミ市の名残りというあたりもいよいよ消える寸法である。

ある日ある時

町かどでよく昔なじみにあり。

昔といったものの、なかには二、三年前というものも、古くたつて十年余りだ。

出会ったとき、「あつ、どこかで一語だったなあ」と感じて、すぐには思ひだせない顔が多い。向うでも同じことを考えてるなと、そんな時はわかる。

そのまますれちがつてしまうことがある。

また逆に、「よお」と肩をたたきあつて、しかしやっぱり、どこの知り合いだったか思い出せないまま、なんとなく立ち話がはじまるときもある。

話していれば、お互いにわかつてくる。

そしてあのこと、このこと、あいつや、そいつやという具合に共通の思い出をたしかめ合う。

ゼニの都合のいい方が一杯にさそつて話はなおはずむ。必らず出てくるのは、ケガした、入院した、死んち、バクラレター——などの誰彼の消息だ。

しかし、気付いてみると、そういう暗い話を交しているオレも相手も、しめっぽくはしていない。といって別に虚勢も張っていない。しごくあたりまえにしゃべり合っている。何ともいえずそこがいい。とてもいい。